第31回 寄居町交通安全 ポスター・作文コンクール

悲惨な事故をなくし、暮らしやすい社会を築くため、子どもたちが真剣に考えました。

いずれの作品も、交通安全に対する願いが込められています。

埼玉県知事賞

根岸　真愛（桜沢小5年）

ポスターの部

寄居警察署長賞	岡野　未来	男衾小5年
寄居町長賞	今井　那津	男衾小4年
寄居町議会議長賞	河合　愛奈	男衾小6年
寄居町教育委員会教育長賞	神田　江輝	折原小6年
寄居町交通安全母の会会長賞	中村　葵	寄居小6年
入　選	石井　皇成	男衾小4年
	岩片翔太郎	男衾小4年
	大場　藍菜	男衾小4年
	利根佑実子	男衾小4年
	小林　千祥	用土小5年
	新田　愛実	鉢形小5年
	峯岸　冬華	男衾小5年
	小林　瑞樹	寄居小6年
	柴﨑　竜斗	桜沢小6年
	西村圭之輔	用土小6年
	神田　有希	折原小6年
	金田　麗加	男衾小6年
	相馬　彩花	男衾小6年
	髙橋　琴葉	男衾小6年
	原口　佳苗	鉢形小6年

作文の部

寄居警察署長賞	石井　翔己	桜沢小6年
寄居町長賞	黒瀬　愛佳	折原小6年
寄居町議会議長賞	山本　梨乃	男衾小6年
寄居町教育委員会教育長賞	森　涼葉	寄居小5年
寄居町交通安全母の会会長賞	安念　伸泰	男衾小5年
入　選	内田　早紀	寄居小1年
	桜井　遥香	男衾小4年
	菅原　丈嗣	男衾小4年
	新堀　由羅	男衾小4年
	山本　渚月	男衾小4年
	清水　心温	用土小5年
	加藤　陽菜	男衾小5年
	小枝　春輝	男衾小5年
	新堀　来瞳	男衾小5年
	足澤　美羽	桜沢小6年
	大澤　花歩	桜沢小6年
	齊藤　麻優	桜沢小6年
	柴﨑　竜斗	桜沢小6年
	田中　瑠名	桜沢小6年
	神田　祐実	折原小6年

埼玉県知事賞

『守ってあげたかった』

力丸　叶晟（男衾小6年）

平成二十五年の六月一八日は、ぼくにとって一生忘れられない悲しい日です。兄弟のように仲よしだった愛犬が、車にはねられて、死にました。

「まさか、夢だよね」

と、今でも受け入れることができません。マメシバの男の子で名前は「福」。一歳六カ月でした。事故は一瞬に起きました。朝六時、いつものように、散歩に出かけました。たまたま、リードが離れてしまい、走り出してしまいました。その先に、交差点があります。慣れた足どりで、福は横断歩道を直進しようとした瞬間、信号が変わる前に、すごいスピードで交差点に進入してきた車に、はね飛ばされました。車にぶつかった時、今までに聞いたことのないドスンと、車と福がぶつかるにぶい音。悲鳴なのか、なんなのかわからない福の声。周りの犬が一斉に吠えました。車は止まることもなく、すごいスピードのまま行ってしまいました。交差点の近くの家の方が、偶然一部始終を見ていました。ぼくは、足がすくんでしまい動けなくなってしまいました。その時のことをはっきり覚えていません。近所の方が、ご夫婦で、福を横断歩道から、安全な歩道に救出してくれました。母も異変に気が付き現場に駆けつけて来ました。ぐったりとびくともしない福。母は、福を抱きかかえ、家に戻り、急いで車に乗り、寄居の動物病院に行きました。車内で、ぼくは、福の心臓が止まらないように、必死に心臓マッサージをしていました。しかし、福は二度と声を上げることはありませんでした。

福がいなくなってから、事故が起きた場所に母と何度も行きました。そこは、手押しの信号機があります。平日は、どの車も忙しそうに走行する車ばかりです。小中学校の通学路でもあり、登校時間は、地域の見守隊の方が毎朝、横断歩道にいて安全を見守ってくれています。左折、右折する車もあり、決して安全ではないことがよくわかります。

運転する大人の皆さんにお願いです。どんなに忙しくても、毎日通る慣れた道でも、スピードは出さないでください。そして、人だけではなく、動物にも心を向けてください。大切なのは、歩行者も運転者も交通ルールとマナーを心得ること。また、車社会から動物を事故から守るのは飼い主の責任であること。福との悲しいわかれを、決して忘れず、交通ルールとマナーを守れる大人になります。

最後に、天国の福へ。

「守ってあげられなくてゴメン」

地方自治功労賞

高橋　武義　さん

髙橋武義さん（赤浜）は、平成3年から平成15年まで町議会議員として、地方自治の振興発展に貢献されました。この間、町立学校給食センターの改築や鉢形城歴史館の建設など、町の教育施設充実に尽力されました。

さらに、町の国民健康保険運営協議会長として町民の健康づくりの意識高揚を図り、衛生行政の面でも地元住民とのパイプ役を務めるなど大きな役割を果たし、地域福祉の基礎を築かれました。

消防功労賞

逸見　和美　さん

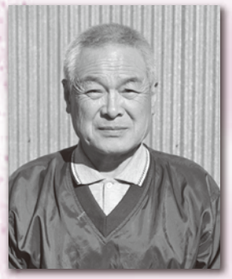
逸見和美さん（上の町）は昭和44年4月、寄居消防団第4分団入団以来、34年余り消防団活動に尽力されており、平成15年4月から2年間、平成19年4月から現在まで寄居町消防団長として活躍されています。

平時には団員の指導や消防団の運営に熱心に取り組み、火災・災害発生時には現場で陣頭指揮を執られています。

また、埼玉県消防協会の役員や寄居町防災会議委員など、広く消防・防災活動に努められています。

技能功労賞

福島　正雄　さん



福島正雄さん（用土4）は、40年にわたり建築大工として従事し、特に日本古来の伝統技術「規矩（きく）術」で優れた技能を発揮されました。「規」は円を、「矩」は直角を意味し、「規矩術」とは屋根の小屋組みや軒を構成する部材等の形状や寸法を作図する方法を指します。

また、埼玉土建技能士会の役員として、後進技能者の育成および業界の発展に尽力したほか、埼玉県技能検定委員として技能検定制度の推進に貢献されました。

これらの熟練された技能や功績が評価され、このたびの受賞となりました。

文化ともしび賞

井　上　　清　さん

11月18日に埼玉県知事公館で「第35回文化ともしび賞受賞式」が行われ、井上清さん(岩崎)に表彰状と副賞が贈られました。文化ともしび賞は、地道な文化活動を続け、地域文化の向上に貢献している個人および団体に贈られるもので、井上さんの書家としての長年にわたる活動が評価され、今回の受賞に至りました。

井上さんは「このたびの受賞は、私の生涯にとってこの上ない喜びです。今後も、この受賞を糧に町の郷土文化の伝承と発展に尽力したいと思います」と喜びの気持ちを話してくれました。

シラコバト賞

寄居サッカークラブ

シラコバト賞は、日ごろから身近なところで住みよい地域社会実現のために積極的な実践活動を地道に続けている個人、または団体に贈られる賞で、寄居サッカークラブの「健やかな心身を育てる活動」が高く評価され、このたびの受賞となりました。

寄居サッカークラブは、長年にわたるサッカーを主としたスポーツ活動を通して、地域の青少年健全育成や社会人のスポーツへの参加を促しています。毎週、幅広い世代の方がクラブ活動に参加しており、地域のふれあいやコミュニティの醸成（じょうせい）に大いに貢献しています。